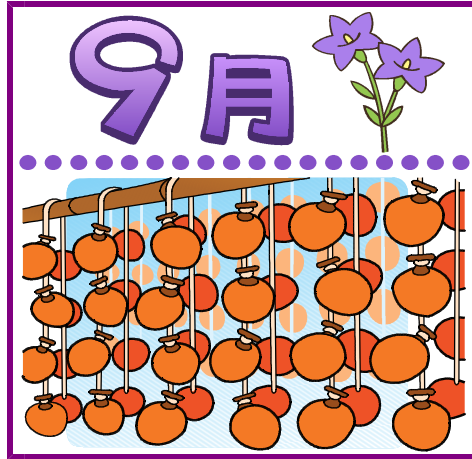


めぐみイエス・キリスト教会

2022年9月4日(日)第一主日礼拝
週報「通算第624号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌259「聖いふみは教える」 p. 404

【交読文】 No.23 詩篇第66篇 p. 897

【賛美Ⅱ】 新聖歌486「雄々しくあれ」 p. 780

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「主と共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き19章13節～20節

【礼拝説教】 《スケワの七人の息子たち》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所 使徒の働き19章13節～20節(新約p. 274)

19:13 ところが、ユダヤ人の巡回祈祷師のうちの何人かが、悪霊につかわれている人たちに向かって、試しに主イエスの名を唱え、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる」と言ってみた。

19:14 このようなことをしていたのは、ユダヤ人の祭司長スケワという人の七人の息子たちであった。

19:15 すると、悪霊が彼らに答えた。「イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。しかし、おまえたちは何者だ。」

19:16 そして、悪霊につかわれている人が彼らに飛びかかり、皆を押さえつけ、打ち負かしたので、彼らは裸にされ、傷を負ってその家から逃げ出した。

19:17 このことが、エペソに住むユダヤ人とギリシア人のすべてに知れ渡ったので、みな恐れを抱き、主イエスの名をあがめるようになった。

19:18 そして、信仰に入った人たちが大勢やって来て、自分たちのしていた行為を告白し、明らかにした。

19:19 また魔術を行っていた者たちが多数、その書物を持って来て、皆の前で焼き捨てた。その値段を合計すると、銀貨五万枚になった。

19:20 こうして、主のことは力強く広まり、勢いを得ていった。

●ポイント1.「パウロを通しての神様のみわざ」とは？

※使徒の働き19章11節～12節「エペソにおいて」 (新約p.274上段)

19:11 神はパウロの手によって、驚くべき力あるわざを行なわれた。

19:12 彼が身に着けていた手ぬぐいや前掛けを、持って行って病人たちに当てると、病気が去り、悪霊も出て行くほどであった。

●ポイント2.「ユダヤ人の祭司長スケワ」とは？

■スケワ 自称ユダヤ人の祭司長。パウロが病人をいやし、悪霊を追い出しているのを見て、7人の息子たちは、ためしにイエスの御名を唱えて悪霊を追い出そうとしたが、逆に悪霊の反撃にあって傷を負った。

その出来事がエペソ中に知れ渡り、「皆恐れを感じて、主イエスの御名をあがめるように」なり、多くの者たちが魔術の本を焼き捨てた。この事件によって、イエスの御名が呪文等とは、本質的には異なることが分る。スケワの名は大祭司の家系には記載されていないが、それはこの名がラテン語で、他にヘブル名を持っていた為かもしれない。あるいは「祭司長」とは魔術師の偽名にすぎず、7人の息子たちは「祭司長スケワの息子たち」という呼び名を持つ、巡回祈祷師の一団であったのかもしれない。

●ポイント3.「イエスのこと、パウロのこともよく知っている」こととは？

※ルカの福音書4章41節「カペナウムの会堂にて」 (新約p.117上段)

4:41 また悪霊どもも、「あなたこそ神の子です」と叫びながら、多くの人から出て行った。イエスは悪霊どもを叱って、ものを言うのをお許しにならなかった。イエスがキリストであることを、彼らが知っていたからである。

※マルコの福音書16章17節～18節「主イエスの約束」 (新約p.105下段)

◎先週の礼拝メッセージ【ティラノ(ツラノ)の講堂において】

《エペソにやって来たパウロは、安息日にユダヤ人の会堂において、三ヶ月にわたって、神の国について大胆に語りました。この間に弟子が出来たと書かれています。パウロ自身がバプテスマを受け、聖霊を受けた十二人が、直近の弟子になったのではないのでしょうか。

しかし、三ヶ月が経った頃のことです。ある者たちが心を頑なにしてお聞き入れず、会衆の前でこの道のことを悪く言った」とあります。そこでパウロは、弟子たちを連れて、会堂を出て、ツラノの講堂に退いたのです。ツラノとは、固有名詞であって、この講堂の創設者もしくは所有者であったかも知れません。伝承では、午前中に講義があつて、午後4時からまた講義があり、その間(午前11時～午後4時)の時間を、パウロは自費でツラノから、長い期間を借り受けたのです。

推測ですが、この便宜を計ったのは、パウロの同業者であり、また天幕作りの同業者でもあるプリスキラとアキラ夫婦ではないでしょうか。パウロは、第二回伝道旅行の時にコリントでこの夫婦と出会い、その後、行動を共にします。まさしく主が用意して下さった人物です。

パウロは、朝早くから天幕作りを手伝い、その報酬として衣食住を提供され、ツラノの講堂の家賃を払うことが出来たのです。

パウロは、毎日、ツラノの講堂で福音を語りました。これが二年間続いたので、ローマ帝国アジア州に住む人々は皆、主の言葉を聞いたとあります。それだけではありません。主イエスは、パウロが語るみ言葉に伴うしるしとして、驚くべき力あるわざを行なわれたのです。

後にパウロは、その書簡において、自身の伝道が、御霊による力の現われであったことを証ししています。『私の言葉と私の宣教は、説得力のある知恵の言葉によるものではなく、御霊と御力の現われによるものでした。神の国は、言葉ではなく力にあるのです。』と。》

お知らせ

※9月11日(日)の第二主日礼拝は、午前10時からとなります。鈴木師は、9月19日(月)JTJ30周年記念礼拝にスタッフとして奉仕です。